



展示棟は開放感のある吹き抜けの天井に、風格たっぷりの梁や柱、味わい深い土壁の建物。撮影に使われたバイクも展示されています。「庵治ロケ地MAP」もここで入手できます。



落ち着いた色合いの店内には、自然光が差し込み、外観とはまた違った昭和のレトロ感があります。



庵治地方でのみ産出される「庵治石」は世界最高品質で「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれ、堅く美しい石質と、石目が細かく細工しやすいこと、そして水にも劣化にも強いことから建築材や灯籠、墓石などに使用されています。

純愛の聖地に立つロケ地の観光拠点

ロケ地めぐりの拠点となるのは、映画に登場した重じいの雨平写真館を再現した「純愛の聖地 庵治・観光交流館」です。「雨平写真館」の文字があるドアを開けると、ゆったりとしたスペースのカフェがあります。コーヒーマの香りに包まれながら窓の外を眺めると、瀬戸内の小さな町に住む映画の主人公になった気分。

また、観光交流館に隣接する、古い米蔵を再利用した展示棟には、映画で使われた小道具やロケ地の解説パネルが展示されています。出演者が一番印象に残っているシーンを撮影した場所や、エピソード、御食事処など、町の地図と一緒に確認できます。まずはここで情報を収集して町をめぐりましょう。

80年代の町並みが残るおだやかな海辺の町

撮影場所を探して四国中を巡った監督やスタッフが、最後にたどり着いたのが庵治町でした。花崗岩の層からなる五剣山の麓に位置し、花崗岩のダイヤとも呼ばれる庵治石を産することで知られる当町ですが、監督は瀬戸内海に突き出した半島の地形に注目。初めて訪れた時に、忘れてしまったような懐かしさがあると庵治町の風景に魅せられ、即座にロケ地に決定しました。

庵治町を歩くと、あちらこちらにサクとアキの面影が見つかります。アキが待っていた桜八幡神社の石段と赤い欄干の宮の下橋。二人が夕陽を見つめた王の下沖防波堤。ウオークマンを見つけたショーウィンドウのある商店街。切なくドラマチックな物語とは裏腹に、おだやかな海沿いの町の風景に心安らぎます。

純愛の聖地 庵治・観光交流館

ロケ地めぐりの拠点となるのは、映画に登場した重じいの雨平写真館を再現した「純愛の聖地 庵治・観光交流館」です。「雨平写真館」の文字があるドアを開けると、ゆったりとしたスペースのカフェがあります。コーヒーマの香りに包まれながら窓の外を眺めると、瀬戸内の小さな町に住む映画の主人公になった気分。

また、観光交流館に隣接する、古い米蔵を再利用した展示棟には、映画で使われた小道具やロケ地の解説パネルが展示されています。出演者が一番印象に残っているシーンを撮影した場所や、エピソード、御食事処など、町の地図と一緒に確認できます。まずはここで情報を収集して町をめぐりましょう。



「100年の半分も、ひとりの人のことを想っていられるなんて」とサクがつぶやく、まさに純愛の聖地、皇子神社のプランコ。



アキがサクを待っていた桜八幡神社の石段と赤い欄干の宮の下橋。ここから二人の恋が始まります。



住まいの近くに写真館のセットがあった元家幸子さん。「出演者の方々とはなまな気さくで、撮影前に一緒にコーヒーマを飲んだり、記念撮影をしたり、良い思い出です」

サクとアキが二人で夕陽を見つめ、大人になったサクが深い喪失感を抱きながら海に向かって叫ぶ、王の下沖防波堤。入り江の向こうは源平合戦で有名な屋島。

感涙を誘った 物語の舞台はおだやかな 海沿いの町だった。

高松中央ICより国道11号経由で約25分。静かな漁港の町、高松市庵治町に到着します。瀬戸内のこの小さな町で、大ヒット作品『世界の中心で、愛をさけぶ』が撮影されました。町のシンボルとして古い写真館のロケセットが再現され、「純愛の聖地 庵治・観光交流館」として、旅人たちを迎えています。

映画『世界の中心で、愛をさけぶ』のロケ地へ
香川県高松市
庵治町
あ じ ちやう



【物語】昭和61年夏、同じ高校に通う朔太郎とアキは、いつか互いに惹かれ合い、恋に落ちる。二人で見る夕陽。カセットテープの交換日記。無人島への旅。そんな幸せな日々が、アキの突然の病によって終わりを告げる。約束だった世界の中心への旅も果たせぬままに。

『世界の中心で、愛をさけぶ』好評発売中 / 発売元：博報堂DYメディアパートナーズ・小学館 / 販売元：東宝



純愛の聖地 庵治・観光交流館

- 📍 香川県高松市庵治町5824-4
- ☎ 087-812-2270 (よんてつ不動産)
- 🕒 【観光交流館】9:00~17:00 (入館は16:30まで)
【カフェ】10:00~16:00 (L.O.15:30)
- 🔥 火曜日
- 📍 あり